



緑萌ゆ

新宮小・中学校長だより 2020.7.20

2年生と夏野菜

小学2年生は、今、生活科の学習で夏野菜を育てています。収穫した野菜をうれしそうに持って帰っています。それにまつわるお話を二題。

(その1)

先日、東予教育事務所と市教育委員会の方が学校訪問に来られて全学年の授業を参観されました。参観のトップバッター、校長室に一番近い2年生の教室では、栄養教諭の先生とのチームティーチングで、学活「夏野菜について知ろう」の授業です。まず、スライド写真を使って野菜当てクイズです。「この写真は何の写真でしょう？」元気よく手が上がります。指名された子が元気よく答えます。「キューカンバー」。

私「!?!」。授業の邪魔になってはと思い悟られないようにざわつく参観者。

キュウリの英語だってご存じでしたか？私は恥ずかしながら知りませんでした。

お客さんが来ていて、予想外の答えであわててしまってもおかしくない場面ですが、先生は落ち着いています。「そうですね。キュウリですね。」「ではこれは？」「エッグプラント！」「グリーンペッパー！」(ちなみに、なすとピーマンです。ピーマンの英語はピーマンじゃないのか!?)などと自然な雰囲気の中で子どもたちは発表していきます。トマトは「トメエイト」ではなく「トマト」と答えて、枝豆は「枝豆」で、なんだかほっとしたりして……。

参観者の方々は皆驚いていました。新宮小・中学校ならではの場面いきなり遭遇することになって、感心しきりでした。多くの学校では、外国語活動は3年生からです。1年生からイングリッシュタイムやわくわく教室の英会話教室などで英語に慣れ親しんでいる新宮だからこそその場面でした。「子どもたちと先生に、一本取られた！」という感じでした。

(その2)

ある朝、学校に来てみると、子どもたちが野菜を育てている畑が荒らされていました。根元から引きちぎられた枝豆。食べ散らかされたナス。ほかにトマトやキュウリ等も被害にあって、ひどい状態でした。この後、近くの山で姿を見ましたし、荒らされた状態から、サルの仕業ではないかと予想されます。子どもたちは、落ち込んでしまうだろうかと心配しました。2年生は、その日の生活科の授業で話し合ったそうです。当然、ショックで、悲しかったり、腹が立ったり。でも話し合うと、「動物もおなかですいている。生きていくため。」「動物が食べたくなるほどおいしく育てられていた。」「また、がんばって育てよう。」と前向きな思いも出たそうです。素晴らしい子どもたちに拍手です。

また、先生は「ピーマンが無事だったのはなぜ？」と質問していました。その答えは教科書には書かれていないけれど、まさに生きた勉強。生活に根差した学習だと思います。アクシデントを生きた教材として子供の成長につなげていく先生にも拍手です。

ステキな2年生の子ども達と先生と夏野菜のお話でした。